

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ねっこぼっこ		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 11 月 6 日		令和 6 年 12 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和 6 年 11 月 6 日		令和 6 年 11 月 29 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 22 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童 1 人 1 人に対して、障害の特性から鑑みた適切な支援を行うことで、児童及び保護者からの信用を得ている。 ⇒事業所開所から 6 年、利用を辞めた児童は 0 人（進学を除く）。	定期的な職員会議の場で、利用児童 1 人 1 人の様子や行動など情報を共有。支援計画の方針と照らし合わせ、都度支援方針やプログラムの修正や工夫、声掛け・接し方などを話し合っている。	専門の職員による専門的な支援への取り組み。 例えば、心理的なサポート、体の使い方、運動の仕方を教えるといった支援など
2	「子供の預かりニーズ」を満たすことでなく、児童の療育・支援を優先している。 ⇒長年利用している利用児童が多く、利用者同士の仲も良い。児童の成長過程が実感できるので職員のやり甲斐にも繋がっている。	・あくまで「預かり」でなく「療育支援」を行う事業所なので、スポット（単発）的な利用については断っている。 ・土日祝は家族と過ごす時間として使ってもらいたい為、土日祝は営業しない。	子供にとってそれぞれ「本当に必要とする支援」とは何かを今一度考え、支援に取り組む。 その為に、保護者と話し合い、理解する上で適切な支援を展開。時間をかけて子供の将来を見据えた支援を考えていく。
3	子供の悩みに寄り添った支援 ⇒学校へ行けない児童への支援を学校側と連携して行っている。	・児童本人の気持ちを受容し、理解する ・居場所の確保。ひとりではないと思える環境作り ・保護者の心の声を聞き共に支援方法を考える ・無理に登校させず、保護者や学校と密な連携を取っている	肯定的な雰囲気での支援、子供のしたい事を応援。 ⇒小さいことから挑戦して自信をつけ、苦手なことを無理して克服しなくてもよいので自分のしたい事を明確化できるようサポート。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	アンケートの「どちらともいえない」「わからない」が多い項目に対しての、保護者への周知が足りていない。 ⇒事業所の支援内容や取り組みが保護者へ伝わりきれていない。	・支援計画の内容など事業所での支援の取り組みが口頭の説明だけでは伝わりきらない ・事業所内での児童に対する支援や取り組みが保護者にとってイメージしにくい状態になっている	・保護者へ支援内容などの説明をする前に、事前に従業員を保護者に見立てたロールプレをする ・保護者が支援時間中（営業時間中）にお子様の様子を自由に見られるよう出入りしやすい環境づくり ・事業所内での支援の様子などをホームページへ掲載して子供への支援をイメージしやすい状態を作る
2	知識やスキル向上のための取り組みが不足 ※外部研修の参加など	・知識やスキル向上の為に施策として社内で実施する研修などがメインとなっている ・サービス提供時間や人員配置等の都合上、社外研修に参加しづらい環境にある	・自治体や自立支援協議会等からの研修案内を随時職員へ案内。積極的な参加を呼びかけ、その者が抜ける際のフォローを徹底する。
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス ねっこぼっこ

公表日 令和7年1月22日

利用児童数 18名 (うち調査対象児童15名)

回収数 13名 (うち兄弟の利用世帯あり)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	5				指定基準に基づいたスペースを確保しており、聴覚過敏のある子には静かな場所の提供もしています。引き続き、子供の成長との兼ね合いを考慮していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13					指定基準に基づき人員を配置しています。引き続き、状況に応じて体制を構築していきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	1		1		目的別、目づ機能的な動機確保を行っております。現状は維持しつつ、児童各々の成長・特性を見て必要部分は改善していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12			1		空気清浄機の常時稼働、毎日の清掃・消毒を実施することで清潔な環境維持を行っております。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	1		2		支援計画の説明時など保護者様とお会いする際には、本児のアセスメント結果を踏まえた支援方針をご理解頂けるようわかりやすい説明を心がけます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					今後同様の方針で継続します。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14					定期的なアセスメントを行い、保護者とは送迎時に情報交換し、保護者のニーズを職員会議で吸収し、支援計画に反映しています。今後同様の方針で継続します。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11				2	作成した支援計画の説明時に、各項目について具体的な目づわかりやすい説明ができるよう努めます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					今後同様の方針で継続します。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10				3	独善と自己満足に陥ることのないように活動プログラムの定期的なモニタリングを行い、都度修正を図っております。今後同様の方針で継続します。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1	1	7		必要な場合に応じて個別対応をしております。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12			1		利用契約時に説明は徹底しており、今後同様の方針を継続します。利用開始後であっても、保護者が気軽に不明点を尋ねられるような関係性作りに努めます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11			2		支援計画の説明は更新の都度、保護者へ行っております。保護者が気軽に不明点を尋ねられるような関係性作りに努めます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	1	1	7		研修会やイベントの案内等は都度行っています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13					送迎時の口頭でのやり取りや日々の連絡帳を通じて日常の情報や発達理解を深めています。今後同様の方針で継続します。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12				1	都度行っております。今後同様の方針で継続します。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					今後同様の方針で継続します。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	3	7		保護者会を開く予定は特になく、要望があれば検討します。家族への支援については、必要に応じて個別に行っております。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11			2		苦情窓口等の用意・案内など契約時に行っております。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13					今後も同様の方針で継続します。意思伝達を目的とする電子ボードを用意します。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	1	1	7		行事や通知事項がある際には都度印刷物を用意し渡しています。日頃の連絡については連絡帳で知らせています。そのほか、ホームページの活用も検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11			2		職員採用時に個人情報取り扱いに対して周知し、就業規則にも徹底しています。個別支援計画等の書類に関しては、鍵付き書庫にて保管しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10			3		各種マニュアルは策定済み。災害発生時の集合場所など保護者への通知も行っています。訓練は定期的に行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9			4		定期的な訓練の実施は行っております。訓練の都度、保護者への周知を今後行っていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11			2		安全計画の保護者への周知については、今後行っていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11			2		事故や怪我が発生した際には、その都度、対象児童の保護者へ説明しています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12			1		今後も同様の方針で継続します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	1				今後も同様の方針で継続します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	13					今後も同様の方針で継続します。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスねっこぼっこ				公表日	令和7年1月22日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	子供の状態やしたい事を見て配置を考えている		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	教材毎に配置スペースを設けている。転んでも大丈夫な様に床にマットを敷いている		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	部屋が2つあり、場合によって別空間もあります。※仕切り（パーティション利用）を設けて工夫する場合もある		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	利用者一人一人の出来ること、困難なこと、性格を指導員の中で話し合い情報提供しながらプログラムを組んでいます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	近隣にある駄菓子屋さんの店主・店員さんに利用者の性格や適応行動などを日頃から話し、子供達がお店を利用する時に支援の協力をしてもらっています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		状況・状態・環境によって、その時々、工夫されていると思います。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	6		利用児童を自宅に送り届ける為、報告・振り返りは翌日朝に共有。且つ、その場にはいないスタッフにも出勤時に内容を共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		自立支援協議会などが主催している研修や集会への参加を検討していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		支援時間中の保護者様の参加を呼びかけていくことを検討していきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		保護者同士の交流機会については、保護者様からの要望があれば検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		家族、病院からの指示を確認。細かく本児の症状時対応を共有。エビベン研修に参加。エビベン常備。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				